

## 郷土教育の推進について

### 1 現状

#### <小中学校>

- ・小中学校では、身近な地域や都道府県についての学習を、社会科や総合的な学習の時間等で行い、郷土を愛する心や異なる文化・歴史を理解する態度の育成をはかっています。(別紙1)
- ・三重県について自信をもって発信できる人材育成の観点から、子どもたちが、郷土三重について興味・関心をもち、自ら課題を見つけ、主体的に学習を進めるための教材を開発するとともに、その活用の推進に取り組んでいます。
  - ※ 学習教材「三重の文化」については、平成21年度は第1部「熊野古道編」、平成22年度は第2部「郷土の文化編」を発行。

#### <高等学校>

- ・高等学校では、将来にわたって積極的に地域を支える人材としての自覚と態度の育成に取り組んでいます。
- ・国語科や地理歴史科において三重県の郷土の文化や歴史、文学等を学習する機会を設けることにより多様な学習の充実をはかっています。

### 2 課題

- ・地域の行事に参加している本県の子どもたちの割合は、全国と比べて高いものの、地域の歴史や自然への関心がある子どもたちの割合は、全国並みであり、中学生になると、これらへの関心が著しく減少する傾向があります。

#### 【参考】

地域の歴史や自然への関心がある子どもたちの割合（「関心がある」「どちらかというに関心がある」の合計）

※ 小学6年生46.0%（全国47.2%）、中学3年生23.9%（全国23.4%）

（「平成21年度全国学力・学習状況調査」の結果による）

### 3 今後の予定

#### <小中学校>

#### ○平成23年度「ふるさと三重」教育推進事業

学習教材「三重の文化」の活用を推進し、新学習指導要領が重視する言語活動の充実や伝統・文化に関する教育の充実をはかります。

#### 【推進地域】

- ・鈴鹿市【石薬師小学校（佐佐木信綱）】
- ・松阪市【小野江小学校（松浦武四郎）】
- ・志摩市【安乗中学校（安乗文楽）】
- ・伊賀市【長田小学校（伊賀焼・松尾芭蕉）】
- ・尾鷲市【矢浜小学校（郷土の林業、漁業）】

また、三重県の自然や歴史・文化などを盛り込んだ「美し国かるた（仮称）」を作成し、郷土に対する興味・関心を高める取組をすすめます。

これらの取組を通して、三重県をよくしていこうとする心や三重県のよさを発信する力の育成をはかります。(別紙2)

#### <高等学校>

高等学校においては、今後も生徒や地域の実態に応じて創意工夫した教育の充実をはかります。



## 特色ある郷土学習の取組について

三重県教育委員会  
小中学校教育室

## 【特色ある取組例】

学 校 名	取 組 内 容
いなべ市立 立田小学校	<p><b>「ほたるの里」</b></p> <p>昭和63年に「山村留学制度」が導入された学校。</p> <p>「ほたるの里」の学校として、長年にわたってほたるの育成を通じて環境の保全等について学習している。</p>
鈴鹿市立 石薬師小学校	<p><b>佐佐木信綱</b></p> <p>石薬師は東海道の44番目の宿場町であり、学習教材「三重の文化」にも紹介されている佐佐木信綱の生まれたところである。学校の横には佐佐木信綱記念館もある。このような環境を生かし、佐佐木信綱の短歌や佐佐木信綱という先人の知恵や生き方を学ぶ学習に取り組んでいる。</p> <p>「三重の文化」を使つての学習や、佐佐木信綱記念館の見学や顕彰会の人からの聞き取りを通して、佐佐木信綱や石薬師の歴史について知り、自らも短歌に親しみ「ふるさと石薬師」に誇りと愛着をもつ子どもの育成をめざしている。</p>
松阪市立 小野江小学校	<p><b>松浦武四郎</b></p> <p>「北海道」の名付け親として知られる地域の偉人「松浦武四郎」をテーマとした学習に取り組んでいる。（松阪市の「松阪夢交流事業」の研究指定校）</p> <p>具体的には、松浦武四郎についての調べ学習、北海道弟子屈町立弟子屈（てしかが）小学校との学校間交流活動に取り組んでいる。このような活動を通して、地域を愛する心やコミュニケーション能力の育成が図られている。</p>
松阪市立 松江小学校	<p><b>松阪牛</b></p> <p>学校における「食育」の中で、松阪の特産物である「松阪牛」をテーマとして、「松阪牛」の生育、流通等について、地域の方々からの聞き取りなどを通じて学習している。</p> <p>学習を進めるにあたっては、「食べ物の命を有り難くまるごといただいている」という意識が子どもたちに育まれるよう留意し、生命を大切にす心の育成につなげている。</p>



<p>志摩市立 安乗中学校</p>	<p><b>安乗文楽</b> 安乗文楽保存会と安乗中学校文楽クラブが中心となり、国の重要無形民族文化財に指定されている安乗文楽（安乗の人形芝居）を保存する活動を行っている。</p>
<p>伊賀市立 長田小学校</p>	<p><b>伊賀焼・松尾芭蕉</b> これまで豊かな自然に囲まれた地域の暮らしをいかし、地域の方とふれあい、聞き取りや体験を通して地域の良さを学び、郷土を愛する豊かな心情を養う取組を進めている。 地域での調べ学習や地域の人々との交流等の活動を取り入れた学習を、教科横断的な取組の研究をおこない、「伊賀焼」の体験学習や地域の偉人である「松尾芭蕉」を教材化した学習を計画している。</p>
<p>尾鷲市立 矢浜小学校</p>	<p><b>郷土学習（林業、漁業）</b> 尾鷲市の中心的産業である林業や漁業の学習を通して、地域の産業の実態や仕事の様子、関わっている人々の工夫と努力を知り、尾鷲の良さを理解する学習に取り組んでいる。児童が、尾鷲の山や海について自分なりの課題を持ち、それを追求する活動を通して、尾鷲の良さや山の仕事や海の仕事の素晴らしさを知ることによって地域のことに誇りを持てるような子どもに育てたいと考えている。</p>
<p>熊野市立 荒坂中学校</p>	<p><b>熊野古道の「語り部」</b> 総合的な学習の時間に、「地域と触れあう活動」をテーマとして、学校全体で取組をすすめている。 昨年度には、3年生の生徒（女子5名）が、熊野古道が学校の敷地を通っているという特色を生かし、世界遺産である熊野古道をテーマとした取組を進めた。具体的には、熊野古道の「語り部」を学校に招いて指導を受け、夏休みに数回、熊野古道で「語り部」の活動に取り組んだ。 中京テレビでもその活動が紹介され、その際、「古道ガールズ」という愛称を付けてもらった。また、支所に掲示されていた学校新聞がNHKの記者の目にとまり、NHKBSに生出演したこともあった。</p>



# 「ふるさと三重」教育推進事業

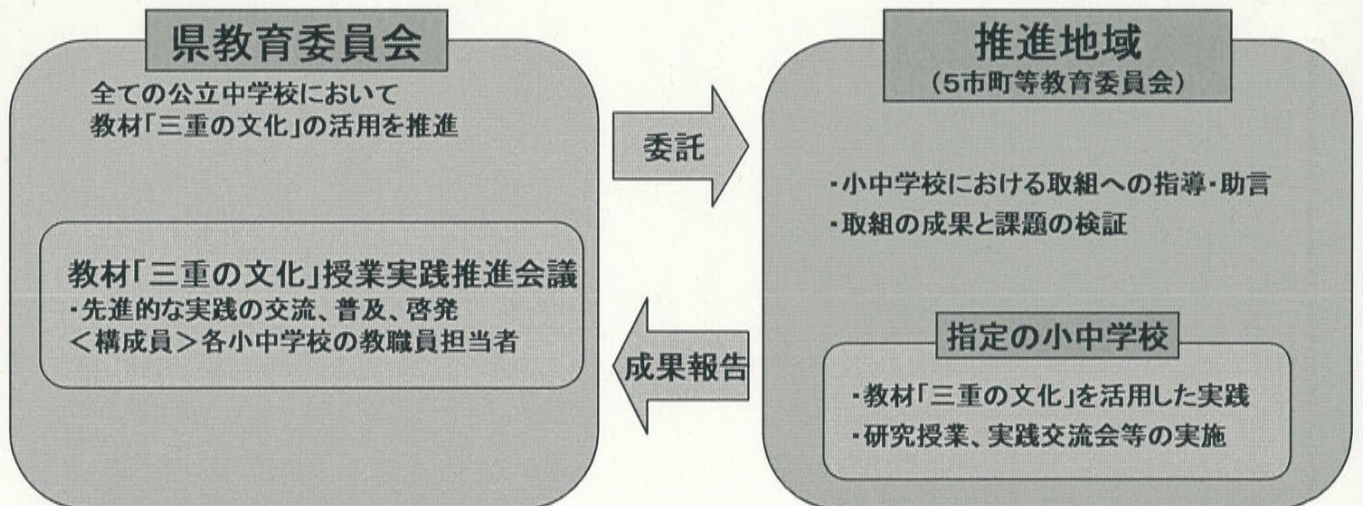
## ねらい

- 1 中学校で郷土学習を進めるために作成した教材「三重の文化」を活用し、新学習指導要領が重視する言語活動や伝統・文化の学習の充実を図ります。
- 2 三重県の自然や歴史・文化などを盛り込んだ「美し国かるた(仮称)」を作成し、郷土に対する興味・関心を高め、三重県をよくしていこうとする心や三重県のよさを発信する力を育成します。

## 概要

### 1 教材「三重の文化」の活用

- (1) 教材「三重の文化」の授業における活用を、全ての公立中学校で推進します。
- (2) 教材「三重の文化」活用授業実践研究を5市町に委託して、先進的な取組を行い、その成果の普及を図ります。



### 2 「美し国かるた(仮称)」の作成

郷土学習の推進の一環として、「美し国かるた(仮称)」を作成します。

## 効果

- 1 教材「三重の文化」の活用を推進することにより、全ての公立中学校で新学習指導要領が重視する言語活動や伝統・文化の学習の充実が図られます。
- 2 教材「三重の文化」の活用や「美し国かるた(仮称)」の作成を通じて、郷土に対する興味・関心を高め、三重県を誇りに思い、地域をよくしていこうとする心が育まれます。